

# 中央ブロックの成果と課題

中央ブロック部長 尾花 淳

## 1 研究の概要

### (1) 研究主題

つながる ひろがる ふかまる 『あい』のある音楽へ

### (2) 研究主題について

茨城県教育研究音楽研究部では、令和6年度から新しい研究主題「つながる ひろがる ふかまる 『あい』のある音楽へ」を設定した。この研究主題は、令和4年度関東音楽教育研究会茨城大会における「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽」というテーマの理念をさらに深化させ、4つの意味が込められている。

1つめの「つながる」とは、音や音楽と関わり、音や音楽を通して、子ども同士・作曲家等の思い、過去と今の学びがつながること、生涯で出会う音楽へとつながっていくことである。

2つめの「ひろがる」とは、音楽活動を通して、表現の幅や「知」、音楽の捉え方、音楽に対する感覚がひろがることで、音楽に対する感性がより豊かになっていくことである。

3つめの「ふかまる」とは、ペア活動やグループ活動などを通して、多様な考えに触れ、試行錯誤を繰り返すことにより、思いや意図をもって音楽で表現することやよさや価値を見出し味わって音楽を聴くことをねらいとしている。

4つめの「『あい』ある音楽へ」は、さまざまな「あい」を授業の活動場面に意図的に位置付けていくことによって、生涯を通して音楽を愛好する心情を育て、豊かな情操を養っていくことを目指している。

この研究主題をもとに、常陸大宮市の2校において、中央地区ブロック音楽教育研究部授業研究会を実施し、2つの授業について検証及び協議を行う。

### (3) 中央ブロック音楽教育研究発表会

① 日時 令和6年10月29日(火)、令和6年11月22日(金)

② 場所 常陸大宮市立山方小学校(11月22日)

常陸大宮市立大宮中学校(10月29日)

③ 授業者 常陸大宮市立山方小学校 教諭 萩野谷 優奈

常陸大宮市立大宮中学校 教諭 志賀 ちひろ

④ 講師 茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事 井上 寛士

(11月22日 山方小学校)

大子町立大子中学校 校長 益子 直之(10月29日 大宮中学校)

## 2 研究内容及び成果

### (1) 小学校 第6学年 題材名「日本や世界の音楽に親しもう」

#### ① 目標

- 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解する。(知識及び技能)
- 音色、旋律、音の重なりなどの要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、日本や世界の音楽や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- 日本や世界の音楽の特徴を感じ取って聴く学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、日本や世界の音楽に親しむ。

(学びに向かう力、人間性等)

② 指導事項との関連

第5学年及び第6学年 B鑑賞(1)

ア 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

[共通事項](1)

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「旋律」、「音の重なり」)

③ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 雅楽「越天楽」と「越天楽今様」の曲想及びその変化と、音色や旋律などとの関わりについて理解している。	思 音色、旋律、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、世界の音楽や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。	態 日本や世界の音楽の特徴を感じ取りながら歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
②知 世界の音楽の曲想及びその変化と、音色や旋律などとの関わりについて理解している。		

④ 本時までの流れ(4時間扱い)及び本時の展開

次	時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知	思	主	評価方法・留意点 ※努力を要する児童への働きかけ
第1次	1	◎日本や世界の音楽のよさ・面白さを感じ取る。				
		○常時活動  ○雅楽「越天楽」の冒頭部分を鑑賞する。 ・雅楽「越天楽」の冒頭部分(音のみ)を聴いて、気付いたことを伝え合う。 ・曲名を聞いて感じたことを伝え合う。 ○本時のめあてを確認する。 雅楽のすてきなところは、どこだろう。  ○雅楽「越天楽」の背景について知る。 ・演奏している写真を見る。 ・教科書を読む。 ・平安貴族の文化を知る。 ○個人で雅楽「越天楽」を鑑賞する。 ・微妙な音程、ドレミではない。 ・聴いたことがない音がする。  ○グループで共有する。 ○本時のまとめをする。 ・雅楽のすてきなところについてワークシートに記入する。 雅楽のすてきなところは○○				・音楽の要素を意識して感想を書いている児童へ即時的評価をする。 ・冒頭部分を聴いて、知覚したことを自由に発言させながら、曲に関する問いを出すよう声掛けする。  ・児童の発言から、音色、旋律、音の重なりを絞って聴くよう伝え、雅楽の特徴に気付けるようにする。 ・ミニ鑑賞で積み重ねてきた、聴き取ったことや感じ取ったことを表す言葉を振り返ってから、選んで使うよう声掛けする。 ・1回目の鑑賞で、デジタルワークシートの時系列にすてきポイント(目印)を打ち、2回目には打ったすてきポイントになぜそう思ったか書き込むよう伝える。 ・デジタルワークシートに、音色や旋律、音の重なりなど、音楽の構造をキーワードとして用意しておき、雅楽のすてきなところを整理して記入しや

	○本時の振り返りをする。			すくする。
2	○常時活動  ○前時の学習を振り返る。  ○本時のめあてを確認する。 歌詞をつけるよさって何だろう。  ○越天楽今様の冒頭部分を聴き、感じ取ったことを伝え合う。 ・教科書で楽譜を確認する。 ・気付いたことを伝え合う。 ・越天楽今様の魅力をまとめる。 ○雅楽「越天楽」に合わせて歌う。 ・拍がないため歌いにくい。 ○「今様」の意味について知る。 ○「越天楽今様」を歌う。 ・日本に古くから伝わる音楽の特徴を生かして歌う。 ・国語の授業で作った秋の歌詞で工夫して歌う。 ○雅楽「越天楽」を聴く。 ○本時のまとめをする。 ・歌詞をつけるよさについてワークシートに記入する。 歌詞をつけるよさは○○ ○本時の振り返りをする。	◎		・前時で作ったデジタルワークシートを全体で共有しながら振り返る。 ・越天楽と越天楽今様の違いや類似点を話し合わせることで、どうして歌詞がつけられたのか・歌詞をつけるよさについて考えられるようにする。 ・タブレットを活用することでリアルタイムで児童同士の考えの交流ができるようにする。  ①知： 雅楽「越天楽」と「越天楽今様」の曲想及びその変化と、音色や旋律などとの関わりについて理解している。【ワークシート、観察】 ※自分の言葉で表現することが難しい児童には、前時で作ったデジタルワークシートも参考にしよう声掛けする。
第2次	3 本 時  ○前時の学習を振り返る。 ・動画(雅楽のすてきなところ)を鑑賞する。  ○本時のめあてを確認する。 それぞれの国の音楽にはどんな魅力があるだろう。  ○事前に決めておいた曲を個人で聴き、曲の特徴をつかむ。 ・バグパイプの演奏(イギリス) ・メヘテルハーネ(トルコ) ・ガムラン(インドネシア)			・雅楽で聴き取ったこと・感じ取ったことを基準にするため、曲の時系列に組み込んだ動画を鑑賞し、自分と友達の感じ取ったことの共通点や相違点について振り返る。 ・音楽を形づくっている要素の確認をすることで、鑑賞する際の観点を明確にする。 ・写真のみで選ばせることで、音色を想像して選べるようにする。 ・魅力がどこにあるかを伝えるために時系列に曲の特徴を書き込めるデジタルワークシートを用意する。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォルクローレ（ペルー、ボリビア）</li> <li>・雅楽－アアクー（韓国）</li> </ul> <p>○事前に決めておいた曲をグループで聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「越天楽」で学習したことを生かし、その曲の特徴について聴き取ったことや感じ取ったことを話し合う。</li> </ul> <p>○違うグループと意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の聴きどころを聴いてもらい、感想を伝え合う。</li> </ul> <p>○本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループと聴き合ったことを参考に自分たちの表現を見直す。</li> </ul> <div data-bbox="263 772 769 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○○の国の音楽には○○な魅力がある。</p> </div> <p>○本時の振り返りをする。</p>		<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに、音色や旋律、音の重なりなど、音楽の構造をキーワードとして用意しておき、児童が聴き取ったことと感じ取ったことを整理しやすくする。</li> <li>・違う曲を選んだグループの友達に聴きどころを伝えて感想を聞くことによって、自分たちと多様な聴き取り方や感じ方に気付けるようにする。</li> </ul> <p>思：音色、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、世界の音楽や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>【ワークシート、行動観察】</p> <p>※まとめることが難しいグループや児童には、聴き取ったことや感じ取ったことの例が書かれた表を見るよう声掛けしたり、まとめ方をアドバイスしたりして補助する。</p>
4	<p>○常時活動</p> <p>○本時の課題を確認する</p> <div data-bbox="242 1355 762 1467" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>世界の音楽にはどんな魅力があるだろう。</p> </div> <p>○グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのグループのプレゼン（すてきポイント）を聞いてから全員で鑑賞する。</li> <li>・発表を聴いて、曲ごとの感想をパドレットに記入する。</li> </ul> <p>○本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの発表や世界の音楽を聴いて聴き取ったことや感じ取ったことをまとめる。</li> </ul> <div data-bbox="247 2049 746 2087" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>世界の音楽には○○な魅力がある。</p> </div>		<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表後もデジタルワークシートを見せながら曲を鑑賞することで、曲の魅力に気付けるようにする。</li> </ul> <p>②知：世界の音楽の曲想及びその変化と、音色や旋律などとの関わりについて理解している。</p> <p>【発表・ワークシート】</p> <p>※感想を書くことが難しい児童は、ひとまとまりの文章ではなく、項目ごとに分けた文章でもよいとする。</p> <p>○ 態：日本や世界の音楽の特徴を感じ取りながら歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もう</p>

						としている。
		○本時の振り返りをする。				【行動観察・ワークシート】

⑤ 成果と課題

【研究会について】

- ・60名以上の参加は、先生方の熱心さが感じられる。常陸大宮市の先生方の協力体制がよい。グループ協議も前向きなあたたかい様子で授業者の先生もやってよかったと思える研究会になってありがたい。

【育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画の工夫】

- ・生活や社会の中で、豊かに音や音楽に関わる資質・能力を育成すると掲げている。簡単にいうと、音楽活動を行う資質・能力と捉えている。
- ・学習指導要領の解説には、歌う、演奏する、音楽をつくる、鑑賞するなど書かれている。将来、義務教育終了後も、生活や社会の中で音楽に豊かに関われるということが大切である。
- ・音楽的な見方・考え方を働かせた学習の充実、内容や時間のまとまりを見通した学習指導計画の作成、学校外の音楽活動をつなげる学習の個性化を図るなどがあげられるが、本時の授業では、内容や時間のまとまりを見通した指導計画が作成されていた。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善】

- ・「課題の発見」「情報収集」「分析」「まとめ」「振り返り」を、「分かった」「なるほど」「もっと知りたい」につなげていく。本時の授業では、予想したことが最初に挙げられている。予想があったことで、疑問につながっていて、この部分はとても大切な場面であった。
- ・日本の雅楽では、みんなで学習し、世界の音楽では、それぞれが自分の興味関心に基づいた選択学習を進めている。同じサイクルを2回繰り返しているところがすばらしい。

【「学習の個性化」を図る授業の工夫】

- ・学習の個性化を図る授業として参考となる取り組みだった。これまでの音楽科では、みんなで同じものを進めることが多かったかもしれない。今日の授業では、楽曲を選択し、子どもの進度や思いに応じて何度も聴くことができていた。
- ・学習の個性化にはICTが不可欠になってくる。デジタルで学習してきたものを、最終的には鉛筆で書いていた。デジタルとアナログの往還をすることで、思考を深めていた。

【ICTの活用】

- ・ICTを使うことが目的ではなく、友達との交流を促す、言葉を吟味するという手段となっていたところもポイントとしたい。
- ・使い方の学習ではなく、音楽の見方・考え方を働かせるための手段となっていて参考になる。中学校の発表でもICTを活用し、主体的に課題解決していたよい提案だった。

【鑑賞の評価】

- ・「グループごとに違う曲を選んだ場合の評価はどうするのか。」という声も聞かれるが、音楽的な見方・考え方を働かせるという視点で解決できる。
- ・学習指導要領では、「音に対する感性を働かせ、音や音楽を形づくっている要素やその働きの視点で、自己のイメージや感情を生活や文化と関連付けること」と書いてある。
- ・例「好きな歌のどういうところが好きなのか」の理由として、③が大切である。
  - ① 歌詞・アーティストが好き（見た目や言葉の視点）
  - ② 曲の雰囲気（音や音楽の雰囲気から判断）
  - ③ ベースライン、旋律、ボーカルの声（音楽を形づくっている要素の視点）

(2) 中学校 第3学年 題材名「思いや意図をもって表現を工夫し、豊かな響きの合唱をしよう」

① 目標

- 「結」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付

ける。(知識及び技能)

- 「結」の旋律やテクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「結」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- 「結」の曲想と歌詞の内容との関わりや混声合唱の響きに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、他者と合わせて歌うことに親しむ。  
(学びに向かう力、人間性等)

② 指導事項との関連

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能  
[共通事項] (1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素: 「旋律」、「強弱」)

③ 題材の評価規準

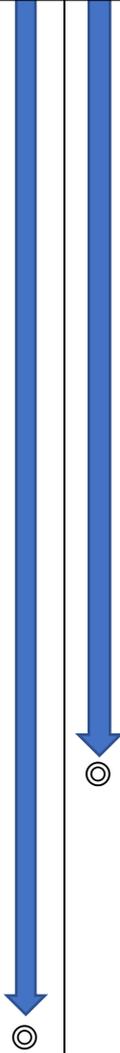
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。	思 「結」の音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。	態 声が響き合う美しさや混声三部合唱の音の重なり方、歌詞の内容や曲の背景に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
②技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。		

④ 本時までの流れ(7時間扱い)及び本時の展開

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知	技	思	主	評価方法・留意点 ※努力を要する生徒への働きかけ
1	◎「結」の旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、曲の特徴や雰囲気を感じる。  「結」には、どのような特徴があるだろうか。  ○歌詞や曲の特徴をとらえる。 ・範唱を聴き、歌詞の内容と旋律や曲想の関わりを感じ取る。 ・タブレットのメンチメーターに曲の特徴を3つ記入する。 ・メンチメーターで上げられた意見を音楽の要素ごとに分類分けを行い、全体で特徴を捉える。 ○パート練習をする。 ・パート練習を通して、曲全体のパートの動きを捉える。				○	◎ 協働的に学習活動に取り組もうとしている。【観察・振り返り】 ※できていない生徒には声かけをしたり、一緒に活動したりする。 思: 範唱を聴き、曲想や歌詞などとの関わりを感じ取り、どのような特徴があるのか、言葉で表現している。【記述、聴取】 ※自分の言葉で表現することが難しい生徒には、音楽の要素の例が書かれた「ヒントカード」を参考にする手立てを講じる。

	<p>○まとめをする。</p> <p>「結」には、○○な特徴がある。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレッドシートで振り返りを記入する。</li> </ul>					
2 ~ 3	<p>◎「結」の旋律、テクスチャ、フレーズのまとまりなどの特徴を捉え、パートの役割を理解する。</p> <p>自分たちのパートはどのような役割をもっているだろう。</p> <p>○パート練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パート練習を通して、正確な音程とリズム、発音で歌えるようにする。</li> <li>・録音をして、課題を明確にしながらか、繰り返し練習を行う。</li> <li>・自分のパートで主旋律を担当しているところに、マーカーペンで色付けし、役割を明確にする。</li> <li>・パートリーダーは、練習終了時に録音を行う。</li> </ul> <p>○まとめをする。</p> <p>○○パートには、○○な特徴がある。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレッドシートで振り返りを記入する。</li> </ul>	◎	◎			<p>技：自分の声部の役割を理解し、正しい音程とリズムで歌っている。</p> <p>【観察・歌唱動画】</p> <p>※歌うことに苦手意識を持っている生徒には、隣で教師と一緒に歌ったり、得意な生徒と一緒に歌ったりして、発声への意欲の手助けを行う。</p> <p>知：パートの役割や歌詞の内容などとの関わりを感じ取り、楽譜に音楽記号や楽譜の読み方を理解している。</p> <p>【観察・楽譜書き取り】</p> <p>※理解できていない生徒には、具体例をあげて補足説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主旋律にマーカーペンで色付けすることにより、パートの役割を視覚的に捉えられるようにする。</li> </ul>
4 ~ 5	<p>◎「結」の全体の響きや強弱などを考え、混声三部合唱で歌う。</p> <p>響きのあるハーモニーを作るためには、どうしたらよいだろう</p> <p>○全体で合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の響きや楽譜に記されている音楽記号を確認しながら歌う。</li> <li>・録音を聴き、改善点を上げながら繰り返し全体練習をする。</li> </ul>		○			<p>技：全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。【観察・動画】</p> <p>※音が取れていない生徒には、一緒に歌ったりアドバイスしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・録音を聴きながら、課題を楽譜に書</li> </ul>

	<p>○小アンサンブルの活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2グループに分かれて歌い、全体の響きや各声部のバランス、パートの役割などを意識して歌うことができているか、互いに聴きあう。</li> </ul> <p>○まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>他のパートの音を聴くことで、響きのあるハーモニーを作ることができる。</p> </div> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレッドシートで振り返りを記入する。</li> </ul>		<p>き込むよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートリーダーを中心に人数や声量が均等にすることを意識してグループ分けを行う。</li> <li>・全体の響きや各声部のバランスなどができているか客観的に聴くよう助言する。</li> </ul>
6	<p>◎作詞者の思いを大切にしながら、自分たちの伝えたい思いが何かを考え、共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちが聴き手に伝えたい思いとはなんだろう。</p> </div> <p>○歌詞の内容や楽譜を読み取り、作詞者がどのような思いを伝えたいのか考え、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・miwaの歌う原曲を鑑賞し、作詞者の思いを紹介する。</li> <li>・作詞者の思いから感じ取ったことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul> <p>○自分たちの伝えたい思いを全体で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの伝えたい思いはどの部分にあるのか、大切にしたい歌詞やフレーズを明確にする。</li> </ul> <p>○大切にしたい歌詞やフレーズを活用して、どのように工夫すればよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で考える。</li> <li>・前時で行ったグループで共有し、練習する。</li> <li>・それぞれ発表する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">◎</p> <p style="text-align: center;">◎</p>	<p>知：【観察、楽譜の書き取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時で活用したメンチメーターの集計表を提示し、聴き手側として感じ取ったことを思い出しながらより明確な思いにする。</li> </ul> <p>表：伝えたい歌詞をパートや全体で考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【話し合い、観察、楽譜への書き取り】</p> <p>※表現の方法が見つけれない時は、実演や例を提示する。</p> <p>技：【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材のねらいが表現の工夫になるため、第6時までには技能の評価を記録</li> </ul>

	<p>○まとめをする。</p> <div data-bbox="215 208 662 394" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「強い絆で結ばれている」という歌詞が何度も繰り返されるから、○○な思いを伝えたい。</p> </div> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレッドシートで振り返りを記入する。</li> </ul>			<p>に残し、次時は評価の確認を行う。</p>
<p>7 本時</p>	<div data-bbox="215 562 1414 640" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎自分達の思いを伝えるためにはどのようにすればよいかを考え、表現を工夫する。</p> </div> <div data-bbox="215 647 671 804" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>聴き手に自分達の思いを伝えるために、どのように表現を工夫すればよいだろうか。</p> </div> <p>○前時の復習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発声練習として合唱曲を歌う。</li> </ul> <p>○表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で行った2つのグループに分かれ、リーダーを中心に、強弱や旋律から、思いを伝えるための工夫点を話し合う。</li> <li>・それぞれの工夫点を楽譜やワークシートに書き込み、明確にする。</li> </ul> <p>○グループで発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーが工夫したところを発表したあとに、実演を行う。</li> <li>・それぞれの良かったところを伝え合う。</li> </ul> <p>○まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で合唱を行う。</li> </ul> <div data-bbox="215 1711 657 1899" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>クラスへの○○な思いを大切にしたいから、サビ後半の強弱記号を工夫して歌いたい。</p> </div> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレッドシートで振り返りを記入する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの内容を振り返りながら、歌うよう助言する。</li> <li>・意見交流を円滑にするため、Googleスライドの中にあるシンキングツールを活用するよう助言する。</li> <li>・ワークシートに、強弱や旋律など、表現を工夫するためのヒントを用意しておき、考えを整理しやすくする。</li> <li>・話し合いで終わらないよう、様々な歌い方を試しながら考えるように働きかける。</li> </ul> <p>主：【観察・話し合い】</p> <p>表：【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの発表を鑑賞することで、多様な表現の仕方があることに気付けるようにする。</li> <li>・グループで発表したことを参考にしながら歌うよう助言する。</li> </ul>

## ⑤ 成果と課題

### 【授業の取組について】

- ・授業の中で、ヒントカードや振り返りが蓄積されたスプレッドシートが活用され、しっかりプランニングされた授業であった。
- ・2グループによって表現される合唱活動の取組がよい。小グループの活動は互いをよく聴くようになるが、少人数の中での役割をしっかりと分担し、個々の技能を高めいくことが必要。指揮者や伴奏者にも役割をもたせ、思いを共有する活動ができるとよい。

### 【知識・技能の評価について】

- ・合唱のまとめを評価するにあたっては、他者と合わせて歌う技能を評価する必要がある。
- ・他者と合わせて歌う技能が身に付けば、表現を工夫することにつながる。
- ・本来なら、技能についての評価を最終時間に置くことが大切である。しかし、本時の題材が「思いや意図をもって表現を工夫し、聴く人に伝わる合唱をしよう」なので、その前に技能についての評価をした上で、表現に関する評価を記録に残す必要がある。

### 【学習指導要領の内容における共通事項について】

- ・今回の授業における音楽を形づくっている要素「強弱」については、自分なりに考えて言葉（はっきり、crescなど）に表している生徒が多く見られた。合唱活動では「旋律」「ハーモニー」「バランス」「声量」など、あらゆる要素が総合的に必要となる。学習の積み重ねを行い、知識・技能の習得につなげてほしい。

### 【合唱指導を行う教師として】

- ・教師は、技術指導としてP（ピアノ）の表現を上手に行うために発声法を指導したり、歌い方を試し体感させたりすることが必要。その活動を通して、音楽を形づくっている要素が結びつき、表現を工夫することにつながる。表現の工夫こそが、思いや意図として伝わるものでなければならない。歌手が思いや意図をもって歌うことで、聴き手に感動を与える合唱を作り上げてほしい。
- ・音楽の授業で行うことと学活で行うことの線引きが難しいところである。音楽科では技術面の指導を行い、様々な表現方法があることを気付かせたい。その上で、最終的にクラスでどのように歌いたいかを学活等で考えるなど、線引きを意識できるようにするとよい。

### 【ICTの活用について】

- ・特定すべきものを突き詰めていくのに効果的なもの→パドレットやフィグジャムを推奨。
- ・OKカンニングの形で他の人がどのような考えを持っているのかを知るのも大事な学習といえる。
- ・ICT機器をコミュニケーションツールとして使えるかどうか考えたほうがよい。

### (3) まとめ

学習指導要領では、「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と人生の創り手となる力」を、改めて「生きる力」であることと捉えている。学校教育においては、その生き方の基盤となる人間性や情操、感性を培うために音楽教育の担う役割は大きいと考える。

令和6年度茨城県音楽教育研究部のテーマ「つながる ひろがる ふかまる 『あい』のある音楽へ」を受け、今年度中央ブロック担当の常陸大宮市では、小学校と中学校において研究を進め、検証授業を行った。令和5年度より授業サポートチームを結成し、計画・指導案の検討を進めてきた。令和6年度は、県のテーマを受け、テーマと検証授業との関わりを再検討しながら、授業をつくりあげてきた。

また、ICT機器の活用場面が、音楽教育でも多くみられるようになったことから、今回の検証授業においてもICTを活用し、質を高められるように、研究を推進することができた。